

# 博物館だより



No.153

令和元年8月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13  
TEL 0930-33-4666  
FAX 0930-33-4667

## ◆博物館NEWS

### 博物館企画展 「不思議な石の世界展」

開催中!

当館では、7月21日(日)～9月1日(日)まで夏休み企画「不思議な石の世界展」を開催します。

この企画展は、夏休みの「自由研究」等の参考として開催するものです。昨年度の「昆虫」に引き続き、今年「石」をテーマに掲げ「動植物の化石」、「石器や顔料の素材となった鉱物」などの歴史に関するものから「肉」や「サイコロ」に似た不思議な形の自然石など、小学校低学年児童から大人まで幅広い年齢層が楽しく学習できる内容の展示となっています。美しい「石」の世界をお楽しみください。

#### ■会期

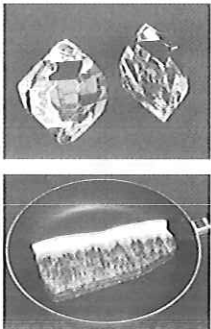
7月21日(日)～9月1日(日)まで

#### ■場所

みやこ町歴史民俗博物館  
企画展示室兼研修室ほか

#### ■観覧料

常設展の観覧料でご覧いただけます。



▲ステーキ「いいえ」石です。(食べられません)

## 企画展関連事業

鉱物標本を作ろう

実施日時及び集合場所  
8月18日(日) 13時30分  
博物館ロビー

参加対象者及び参加料  
小学生とその保護者で、電話による事前申込み(上記連絡先の先着順25名(児童数)まで。通常の観覧料のみで参加できます。

\*低学年(1～3年生)は、保護者同伴の参加が前提。  
\*兄弟・姉妹の参加者のうち、未就学児同伴者については託児を受付。

鉱物・岩石の標本				
花崗岩 かこうがん 山口県宇佐市	安山岩 あんざんがん 大分県宇佐市	石英 せいのい 交野郡中津市	長石 ながし 福岡県中津市	高圧石 こうあつい 大分県中津市
黄鉄鉱 おうてつこう 山口県宇佐市	リチウム雲母 りちうも 福岡県宇佐市	紅銅片岩 こうどうぺんがん 山口県宇佐市	玉髄 ぎよめい 長門県宇佐市	チャート ちやうと 長門県宇佐市
黄鉄鉱 おうてつこう 大分県宇佐市	緑鉄鉱 りよくてつこう 大分県宇佐市	黄鉄鉱 おうてつこう 大分県宇佐市	輝安鉱 きあんこう 熊本県宇佐市	アタカマ石 あとかまいし 山口県宇佐市

▲完成標本(イメージ)



## ◆講座・教室・催し物ガイド

### 8月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】  
8月3日(土) 9時30分
  - 【古文書講座】  
8月10日(土) 10時
  - 【古典かな講座】  
8月17日(土) 9時30分
  - 【みやこ学講座】  
8月24日(土) 10時
- ※日程等変更となる場合があります。  
※見学会等は別途通知します。



▲参考:6月のみやこ学講座現地学習の様子 朝鮮通信使ゆかりの現場見学として山口県下関市を訪れました。

## 「文化のみやこづくり」記念 絵画・作文コンクール作品募集!

博物館では京築地区に在住・通学する小・中学生を対象に、ふるさとの歴史と文化ゆかりの絵画・作文コンクールを行います。

絵画は「わたしの町の過去・現在・未来」をテーマに、作文は「歴史」をテーマとしたもので募集します(ただし、作文は小学5・6年生のみ対象)。夏休みの取組みにぜひ応募下さい。

詳しい応募方法は博物館☎33, 4666へお問合せ下さい!

## 6月の業務日誌から

6月25日(火)、犀川中学校1年生の学習チームから、学年で取り組んだ「馬ヶ岳」学習の成果をまとめたポスターを頂きました。馬ヶ岳の自然や歴史についてまとめたユニークな作品で、なかなかの力作です。犀川中学校の皆さん、ありがとうございました。

6月14日(金)、豊津小学校6年生の25名が歴史の授業で、みやこ町の史跡をバスで巡りました。国府跡や三重塔など見慣れた史跡が、非常に重要なものであることがよく分かり、改めてみやこ町の歴史の素晴らしさを感じた1日となりました。



▲ポスターをお届け頂いた皆さん ポスターは館内に掲示したので皆さんもご覧下さい!



▲甲塚方墳の学習風景 説明を聞いて地域の歴史のすばらしさを知りました。

みやこの歴史発見伝 119

令和とその時代 ①

〜宮子(みやこ)と猫のものがたり〜

「令和」とその時代

五月から新しい元号「令和」に改元されました。この元号の典拠となった歌は天平二年(七三〇)に詠まれ、作者である大伴旅人は、みやこ町を経由して大宰府へ赴任した可能性がうかがえます。この時代のみやこ町は政治的、文化的に重要な拠点であったことが国府、国分寺など古代の重要な遺跡の分布から読みとることができます。今回から、この奈良時代のみやこ町について、皆様に詳しくご紹介してゆきたいと思えます。

「猫ブーム」とその歴史



現在、空前の猫ブームが日本を席巻しており、二〇一七年には猫の飼育数が犬を上回り、猫に関連する商品の売り上げもこれまでない規模で拡大しています。日本における猫の歴史をみると、文献上ではじめて猫の存在が確認できるのは平安時代です。この文献に登場する「猫」について詳しくみていきたいと

思います。

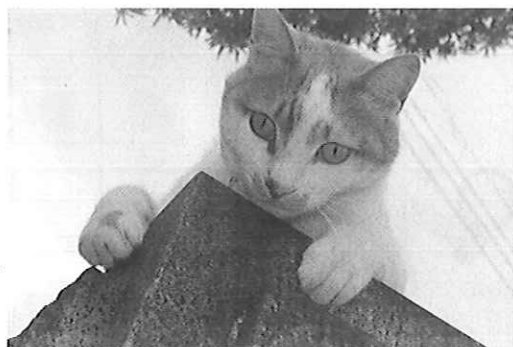
「日本霊異記」にみる

「宮子」

「日本霊異記」は弘仁十三(八二二)年頃に、薬師寺の僧、景戒によつてまとめられた日本最古の説話集です。上・中・下の三巻から成り、合計百十六話が収められています。この上巻、第三十話の中に死者の転生にまつわる次のような物語が記されています。

豊前国宮子郡(京都郡)で小領を勤めていた膳臣廣国という人物が慶雲二年(七〇五)九月十五日に急死しました。「黄泉の国」へ導かれたところ、既に亡くなっていた自分の父親と再会します。

父親は飢えと苦しみから、空腹を満たすために様々な動物に姿を変えて生前の廣国の家を訪れていました。一年目は大蛇、二年目は犬の姿で家に向かいましたが、家に入れてもらえず、三年目に猫「原典の表記は狸(タヌキ)ですが、猫の意」に姿を変えたところ、ようやく家の中に入れてもらうことができ、三年間の空腹を満たすことができたと廣国に伝えます。



▲食肉目 ネコ科 ネコ属

廣国はこの三日後に生き返りますが、前述の物語は、この不思議な「冥界訪問」で父と再会した様子を記録したもので、体験に基づき「悪行を重ねると必ず報いを受ける」という強烈なメッセージを込めながら世間に広めたと伝えられています。

「日本最古の猫の記録」と「膳臣」

実はこの物語、歴史上、初めて「猫」が登場する「日本最古の猫の記録」として、猫の歴史を研究する上で非常に重要な資料とされていますが、この中で特に注目したいのが、現在のみやこ町を含む「京都郡」がその舞台になっていることです。

主人公の「膳臣廣国」という人物は不明な点が多くみられますが、京都郡の官僚とみられ、

当時の役職では、「次官」にあたり、強い権限をもつ人物であったとみられています。このような立場であったことを考えると、当時の豊前国(北九州市から大分県宇佐市周辺)の国庁(現在の県庁)跡が残るみやこ町に關係の深い人物であったことが推察できます。「膳臣」は、その名が示すように、天皇家の食膳を司る氏族として食材の貢納などに従事しました。この他みやこ町周辺にみられる例としては、「続日本紀」天平十二年(七四〇)九月の「広嗣の乱」の記載の中に「仲津郡擬少領膳東人」の名がみられるところから、少なくとも京都郡、仲津郡それぞれに膳氏がいたことが確認できます。同じ豊前国の記録としては、奈良の正倉院に残る、現在の豊前市周辺にあたる「上三毛郡加自久也里」の大宝二年(七〇二)の戸籍には、五人の膳系の名をみるることができます。この他、北九州市小倉南区の長野角屋敷遺跡から、「郡召税長膳臣澄信」という人物の名が記された木簡が出土しています。

この人物は、税である米を蓄えた蔵の管理責任者とみられ、現在の税務署の所長にあたる人物とみられています。豊前国を例にとっても多数の「膳臣」に關係した人物がみられることから、この氏族が様々な食材調達を目的として全国各地に配置されていたことが確認できます。

廣国が臨死体験をした二十五年後に「令和」の典拠となった歌が大宰府で詠まれています。当時の京都郡における郡司クラス階層がどのようにこの地を管理していたかを知る上で「日本最古の猫の記録」とともに貴重な資料に位置付けられます。

「猫」からみる「みやこ町」

この当時、猫は非常に貴重な生き物として珍重されました。

みやこ町は、今回ご紹介した物語の他、夏目漱石ゆかりの「猫の死亡通知」など、「猫の歴史」を語る上で欠かせない資料に恵まれています。「猫ブーム」の今、他の町にはみられない「猫の歴史」から改めて町を見直してみると、これまで知られていなかった新たな町の魅力を発見することができるかもしれません。

(井上信隆)



▲夏目漱石直筆のイラスト  
(「吾輩は猫である」関連資料)